

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025年 4月 10日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町3-2-6 麹町本多ビル3B

評価機関名 一般社団法人日本福祉サービス評価機構

認証評価機関番号

機構 02 - 033

電話番号 03-3262-2260

代表者氏名 代表理事 太田 吉泰

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	太田 吉泰	経営	H0301059
	②	植村 義秀	福祉	H1801080
	③	川畑 俊一	福祉	H2301081
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	多機能型事業所			
	<input type="checkbox"/> 生活介護			
	<input type="checkbox"/> 自立訓練(機能訓練)			
	<input type="checkbox"/> 自立訓練(生活訓練)			
	<input type="checkbox"/> 宿泊型自立訓練			
	<input checked="" type="checkbox"/> 就労移行支援			
	<input type="checkbox"/> 就労継続支援(A型)			
<input checked="" type="checkbox"/> 就労継続支援(B型)				
評価対象事業所名称	青梅福祉作業所			指定番号 1312800236
事業所連絡先	〒	198-0043		
	所在地	東京都青梅市千ヶ瀬町3-393-4		
	TEL	0428-23-3612		
事業所代表者氏名	施設長 福田 和弘			
契約日	2024年 6月 13日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 10月 11日			
利用者調査結果報告日	2024年 11月 20日			
自己評価の調査票配付日	2024年 8月 1日			
自己評価結果報告日	2024年 11月 20日			
訪問調査日	2024年 11月 27日			
評価合議日	2024年 12月 20日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は「聞き取り方式」を主に「アンケート方式」も併用して実施しました。聞き取り調査は、10月11日事業所の食堂で実施(就労継続支援B型-59人、就労移行-3人、合計62人)、当日欠席者など7人(就労継続B型)はアンケート方式で実施しました。アンケート方式の回答は直接評価機関に郵送してもらいました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025年 3月 29日

事業者代表者氏名

福田 和弘

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 利用者の人権尊重と利用者本位の支援</li> <li>2) 利用者や家族の安心・利用者の安全・安定した運営</li> <li>3) 希望に満ちた生活環境の提供</li> <li>4) 愛と信頼があふれる支援</li> <li>5) 専門性を生かしたサービスの提供</li> </ol>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 具体的に掲げられた職員倫理・行動規範を日々の業務において実践する。</li> <li>② 利用者の言動を常に意識して耳を傾け、利用者からの呼びかけや支援の求めには適切でいい、かつ迅速な対応をする。</li> <li>③ 利用者の個性を理解し、自らが選択・決定したことを尊重するとともに対等の立場を守り真剣に対応する。</li> <li>④ チームワークと信頼関係を基盤に、倫理や規範の乱れが生じないようお互いが切磋琢磨し、問題が生じたら早期の検証・修正・周知により、問題を先送りせず迅速に対応する。</li> </ol> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 障害のある人が地域で暮らすことの大切さを知り、そこにおける当作業所の役割と責任の理解と探求心、実践力。</li> <li>② 利用者個々のライフストーリーに思いを寄せて、しっかりと情緒的に受け止められる感性を磨き、利用者の「その人らしい生活」の実現に向けた支援をする姿勢。</li> <li>③ それぞれの自立をイメージし、ハビリテーションの考え方にに基づき、励まし育む姿勢。</li> </ol>

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	全利用者を対象に安全衛生講習会を開催、実際の作業に活かすよう取り組んでいます	
内容①	<p>利用者の安全や衛生に関する知識を高め実際に担当する作業に活かすことができるよう、令和5年8月に全利用者を対象に安全衛生講習会を実施しました。厚生労働省や各種業界等が取り組んでいる労働安全・労働衛生に関する講習会の内容を参考に、知的障害のある人にもわかりやすいように言葉を置き換え、プレゼンテーションソフト等を使い、写真やイラスト、アニメーションも盛り込み、映写して説明しました。服装についても食品関連の箱作りの毛髪等混入対策と仕事着、害虫被害や切傷防止のための服装なども説明、多くの職員が改善に取り組んでいます。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-12	【就労継続支援B型】就労の機会の提供や、知識の習得及び能力向上のための支援を行っている
タイトル②	箱作り作業単価引上げの成果もありR5年度月額工賃は全国平均を上回る結果でした	
内容②	<p>令和4年度末、箱作り作業について単価の引き上げ交渉を行い、応じてくれたところに注文を集約するなどにより、箱づくり作業の収入は年間178万円増額することができ、利用者の工賃アップに結びつけています。この成果もあり年間の作業収入は2年連続で前年比200万円増となり、令和5年度は令和4年度の全国平均月額17,031円を超えて月額平均は18,317円になりました(別に年度末精算支給金は43,065円)。成果誘導型加算が多いために安定して加算を得られない問題がありますが、引き続き、工賃アップに取り組んでいく考えです。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	働く誇りを支援するというコンセプトをもとに本人が作業所の一員として役割を果たしているという自覚を持てるように支援を行っています
	内容	「働く誇りを支援する」という基本コンセプトに基づいて支援に取り組んでいます。利用者の障害特性に合わせて、多様な種類の作業、作業工程の細分化、作業環境への配慮等により、利用者がそれぞれの特性に合わせて作業に取り組めるようにしています。70歳を超える利用者の殆どが働くことに生きがいを強く感じていることがわかり、生産性に個人差はありますが、たとえ生産性が低くなくても利用者がその人らしさを発揮して、作業所の一員としての役割を果たしているという自覚を持てるように支援を行っています。
2	タイトル	障害のある人が地域で生活していけるよう、家族やグループホーム、相談支援事業所、行政等と連携して取り組んでいます
	内容	障害のある人が地域で生活していけるよう、家族やグループホーム、相談支援事業所、行政等と連携して取り組んでいます。長く在宅生活を送り、初めて福祉サービスに接することになった人、他の事業所や企業では就労を継続できなかった人、地域社会からはみ出しそうになっている人など、いろいろな事情を抱えている人達の相談相手となり、その人が再スタートできるよう、関係者とのネットワークの中で大きな役割を果たしています。社会的問題行動に起因する生きづらさを抱える障害のある人達に支援を行うネットワークづくりの準備も始めています。
3	タイトル	利用者のことは職員が誰よりもよく知っていることを自覚し、個別支援計画の策定には全職員が参画し情報を共有して支援を行っています
	内容	利用者一人ひとりのことは作業所の職員が誰よりもよく理解しているという自覚のもとで、利用者の生活上の様々な困難について、特にその初動の段階で速やかに働きかけ、対処するよう努めています。そのため個別支援計画の策定には全職員が参画し、事務・非常勤職員を含めて利用者との触れ合いの様々な場面から利用者の姿を捉え、成育歴や家族関係などの情報も共有して利用者の全体像を把握して支援を行うよう取り組んでいます。個別支援計画はできるだけ平易な言葉で利用者にもわかりやすく提示するよう心がけています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ガス給湯器解体作業の占める比重が高くなる中で解体作業を行う場所の改善が課題となっており、計画の早期実現に努力することが望まれます
	内容	作業活動の中でガス給湯器解体作業の占める比重が次第に高くなり、処理量も増えて、解体作業を行う場所の改善が課題になっています（現在、ピロティのような場所、寒暖対策が必要）。裏の空き地に作業棟を設置する方向で検討していますが、資金調達が一番大きな問題のようです。関係者の協力を得るなど、計画の早期実現に向けて努力することが望まれます。
2	タイトル	引続き、就労移行支援事業の新しい利用者の確保に努力し、運営の安定化を図ることが望まれます
	内容	就労移行支援事業は定員割れの状態が続いています。障害者雇用促進政策のもとで、特別支援学校の進路指導や就労支援系の事業所の報酬体系も変化し、多機能型事業所で行う就労移行支援事業は利用者の確保が十分にできず、経営的に難しい状況に直面しています。青梅福祉作業所では中途離職者等の受け入れを行うなど対策に取り組んでいますが、改めて特別支援学校などの関係機関とも連携して新しい利用者の確保に努力し、就労移行支援事業の運営の安定化を図ることが望まれます。
3	タイトル	利用者の働き続けたいという思いに応えて、ニーズや意向を探り、それにマッチした作業の開拓に挑戦することが期待されます
	内容	利用者の加齢、高齢化が進む中で、これまで担ってきた作業を続けて行けなくなる利用者も出るようになってきているとのことです。利用者本人は、それでも「働く」ことを続けたいと思い、それがまた生きがいにもつながっています。青梅福祉作業所では、多様な作業の種類を揃えて利用者の特性に応じた作業の提供に努力してきましたが、新しい作業種の開拓も必要になっているのでしょうか。利用者のニーズや意向を探り、それにマッチした作業の開拓に挑戦することが期待されます。